

原告と共に

原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会

会報 NO. 5 / 発行：2015 年 1 月

〒612-8082 京都市伏見区両替町 9 丁目 254

北川コンサイスビル 203 号

TEL:090-8232-1664 FAX:0774-21-1798

E-mail:shien_kyoto@yahoo.co.jp

Blog:http://shienkyoto.exblog.jp/

第6回口頭弁論の

傍聴に来てください！

11月14日に京都訴訟の第5回弁論が行われました。開廷時間が変更になったせいか、整理券配布時間内の集まりが悪く心配しましたが、そ

の後も傍聴の方が続きました。傍聴席は満杯となりました。裁判所の入り口前では、原告が手分けして傍聴カードへのハンコ押

し、ポイントが2つになった方にオリジナルグッズ(避難ママを中心に裁縫会をしている「笑顔つながろう会」が作った匂い袋)を配布しました。関西訴訟の原告5名が応援に来てくださいました。

原告側は3つの準備書面を提出。準備書面7(津波被害の回避可能性)では、福島原発事故の後、国は新規制基準を作り、東電も防波堤の設置、防潮堤の設置、扉の水密化、発電機車や電源車の高台への設置などの対策を2年間で実施した。2002年段階で東電が巨大津波を適切に予見していれば、これらの津波対策を実施することは可能だった、と主張しました。

準備書面8(シビアアクシデント対策)では、日本のシビアアクシデント対策は外的事象(原

子炉に異常な状態を生じさせる地震、津波、火災などの事象)に対する安全評価に消極的で、海外に比べ20〜30年の遅れがあったこと、米原子力規制委員会の元委員長が米国の規制基準に則っていれば福島原発事故を回避できた可能性を示唆したことなどを主張しました。

準備書面9(低線量WG批判)では、東電が避難指示区域外からの避難に対しては一切損害賠償責任が生じない」と主張する根拠として「低線量被ばくリスク管理に関するワーキンググループ報告書」を批判。しかも「年間20mSv」は避難等の強制的防御措置を講じる際の目安を示したもので、「社会的に許容される放射線量の水準」を決定したのではない、と主張しました。

11月11日にはひょうご訴訟の第5回弁論が、また12月4日には関西訴訟第2回弁論が行われ、京都からも原告と事務局スタッフが傍聴に参加してきました。

* 第6回口頭弁論期日 *

- ・日時:1月13日(火)11:00~
- ・場所:京都地方裁判所 101号法廷

※10時から10時20分まで整理券の交付があります。
多くの方の傍聴をお願いします。
前回配布した傍聴カードをお持ち下さい。
スタンプの捺印を行います。プレゼントもお楽しみに！

年明けの1月13日(火)には京都訴訟第6回弁論(10時から20分まで整理券交付)があります。ぜひ、傍聴にお越しください。また、期日報告会のあと、場所を変えて支援する会の総会&新春のつどいも予定していますので参加して下さい。
1月22日(木)にはひょうご訴訟第6回弁論(11時開廷)があります。可能な方は傍聴をお願いします。

桃山で行われた年越しまつりの様子(じゃんけん大会)



第5回口頭弁論(11月14日) 準備書面(7)(8)(9)の概説

11月14日の第5回弁論では、原告側は3つの準備書面を提出しました。その要点的解説を弁護団にお願いしました。

◆準備書面(7)——津波浸水の回避措置及び回避可能性について——の概説 (大江智子弁護士・井関佳法弁護士)

第7準備書面で3つのことを主張しました。

第1 津波の予見可能性(貞観津波の研究の進展)

私たちは、準備書面(4)において、被告国と被告東電が、2002年に「津波



貞観津波の研究成果にもとづいて「O.P. + 9・2m」の津波が予見できると試算していま

した。この試算には「試算結果には不確実な部分があるから、実際に津波水位は2〜3割程度高くなる可能性ある。」という脚注がついていました。津波がO.P. + 9・2mより2〜3割高くなれば、O.P. 10mを優に超えます。そうすると、東電は、仮に2002年に上記の予見ができなかったとしても、遅くとも2009年9月には、敷地高O.P. 10mを越える津波の発生を十分予見できたことになり

ます。そして東電は、この試算結果を保安院(国の機関)に報告していましたが、遅くとも2009年9月に第2 国及び東電が負っていた予見義務及び回避義務の根拠 私たちは、準備書面(4)と本書面第1において、津波の予見可能性について主張しました。予見義務と回避義務の根拠については、電気事業法、技術基準省令、安全設計審査指針があり、これらの法令に基づいて、被告東電は、上記の津波を予見し、津波に対して原発施設の安全を確保する義務を負い、被告国は、東電に対して安全確保のために工作物の修理、改造などを命じる義務を負っていました。

第3 津波の回避措置及び回避可能性

◆準備書面(8)——シビアクシデント対策の不備——の概説(森田基彦弁護士)

①「想定」外の場合の結果回避
原告第8準備書面では、被告国及び被告東電のシビアクシデント対策の不備について主張しました。「シビアクシデ

- 本件事故後短期間で、被告国は、新規基準の策定をし、被告東電は、原子力安全プランを発表し、防潮堤の設置、防水壁の設置、水密性の向上など津波対策を実施しました。ところが被告東電は、2002年に敷地高O.P. 10mを越える津波発生を予見したのに、対策を実施せず津波回避義務を怠り、国も適合命令を発することなく結果回避義務に違反し本件事故を引き起こしました。(以上)

★2015年1月のスケジュール★

- 13日(火) 11:00～ 原発賠償京都訴訟第6回口頭弁論
* 傍聴整理券配布は10:00～10:20
終了後～ 期日報告会(弁護士会館地階大ホール)
14:00～ 京都原告団を支援する会総会
&新春レセプション
○22日(木) 11:00～ 原発賠償ひょうご訴訟第6回口頭弁論
○29日(木) 14:00～ 大飯原発差止訴訟第6回口頭弁論
* 12:00～デモ
13:00から傍聴整理券配布



になりました。そして、アメリカにおいて、スリーマイル島原子力発電所事故が起こり、実際に想定を超える事故が起こることがわかったのです。その後、アメリカを筆頭に、ヒューマンエラーのみならず、地震や火災などを原因とするシビアアクシデントの研究と対策がすすみました。これは、設計基準時に「想定」を誤

っていた場合にも、重大な事故が起こらないように、次善の対策を行うものです。③日本のシビアアクシデント対策の遅れ 日本でも昭和62年より、原子力安全委員会内にシビア

(内的事象)に対する準備は行いましたが、地震・津波などの外的事象に対する準備を行いませんでした。国会事故調査では、日本のシビアアクシデント対策は、他国に比べ20年程度遅れていたと評価されています。

④まとめ

海外の原子炉においては、洪水や津波によりシビアアクシデントに至り得る事故が実際に起こっていました。しかし、日本においては、事故当時、ようやく、外的事象に対する規制の準備が始まったばかりでした。さらに、被告らが、海外の動静に着目し、外的事象に対するシビアアクシデント対策を準備していれば、今回の事故は防ぐことができたと考えられます。今後は、シビアアクシデント対策について、より詳細に、被告らの過失を主張していく予定です。

◆準備書面(9)―低線量WG批判―の概説(三上侑貴弁護士)

平成26年11月14日の期日で因果関係班が主張した書面の概要は下記のとおりです。

被告東京電力は、放射線被ばくの危険性、被ばくに対する不安が避難の動機であると捉えたうえで、「年間20 mSvまでの被ばくは社会的に許容される水準である」から、年間20 mSvを下回る、避難の指示が出されていない区域からの避難に対しては一切損害賠償責任が生じないと主張します。この主張の根拠となつて



いるのが、低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループが作成した、『低線量被ばくリスク管理に関するワーキンググループ報告書』です。しかし、WGの構成メンバーは、共同主査である長瀧氏と前川氏を筆頭に、低

関係とは無関係のも

です。この報告書は、およそ、区域外からの避難の社会的相当性を否定する根拠とはなりえず、被告東京電力の主張の根拠とはならないのです。私たちは、これ

署名のお願い

当会では、現在、東京の避難者団体である「ひなん生活をまもる会」、震災支援ネットワーク埼玉(SSN)、そして当会の母体である「うつくしま☆ふくしまin京都」が呼びかけている「避難用住宅の無償提供期間の長期延長を求める署名」に取り組んでいます。署名用紙はコピーして使ってくださいませ。ぜひ、ご協力ください。集まった署名用紙は、お手数ですが、当会宛もしくは「うつくしま☆ふくしまin京都」宛(住所は当会と同じです)に郵送してくださるようお願いいたします。

署名用紙ダウンロード

1・署名用紙本体

避難住宅延長署名

2015.pdf

<http://goo.gl/HsYVtD>

2・署名お願い文

避難住宅署名お願い

2015.pdf

<http://goo.gl/9kPtP1>

子どものために避難を決断

—原告・石原ゆり子さん(仮名)—

この手記は、原告の一人によって書かれ、第4回期日報告会で別の原告によって代読されたものです。この原告は、事情があつて避難元や氏名を公けにできませんが、避難せざるを得なかった事情だけは皆さんに知ってほしいとの思いから、自らの避難の経過をまとめられました。

2011年3月11日、私の住んでいたA市は激しい地震に見舞われ、幼い子供達とテーブルの下でおさまるのを待ちました。が、激しい地震がなかなか収まらず「止まってー!」と叫んだのを覚えています。その夜は主人も戻らず、怖くて車の中で過しました。次の日、乾電池を買うために子供達とホームセンターへ行き、放射能が降っているとも知らずに、2時間半並びましたが、結

局、売り切れになり買うことはできませんでした。それから何日か、食料を買うにも長い時間並び、一人何点と決まっていたので、たくさん買うために子供達も連れて外にいました。公衆電話も待たなければ使えず、車のガソリンもないので自転車をお店を探し回り、放射能が降り注ぐ中、外に出ていました。子供達に申し訳ないはずとずっと後悔しています。私が放射能が危

険だと気付いたのは2011年7月中旬でした。小学校の給食で基準値を大きく超えた牛肉が使われ、小学生達が食べてしまったと知つて、これはおかしいと思ひました。なんとなく気にはしていましたが、そんなに危険な物とは知らずに、それまで普通に過ごしてしまひました。スーパーで売っている物は東日本、物ばかりです。し、ほうれん草の汚染はどれくらいか?と市に電話したところ8 bq/kgと聞いて、それが安全なのか?危険なのかもわからず、何故かそれ以上調べたりはしていませんでした。4月には普通に幼稚園が始まり、暖かくなり、外でたくさん遊び、お花見もしまし

た。なんと近くの川にも入ったりしました。食べ物だってきつと汚染された物を食べさせてしまつていたと思ひます。6月に出荷停止が解けた福島牛乳も飲ませてしまつたのを覚えています。思ひ出すと子供達になんてことをさせてしまつたのだらうと、本当に悲しくて、苦しいです。

何かおかしいと思つてからネットで調べだしました。恐ろしい事になつてゐるのではないかと初めて気が付きました。ネットで探した放射能を気にする母親達の集まりに行つてみて、いろいろな事を知りました。国の食べ物の基準が尋常ではないくらい高いこと、初期被ばくがひどかったこと、呼吸から心臓や肺に入つたものはほとんど出ないこと。α線やβ線やγ線があること。外で遊んではいけないかつたことなど。

もう、知れば知るほど、自分が子供達を守つてあげられなかつたことを後悔し、無知でどうしようもない母だと自分を責め続け、ネットの情報に右往左往し、「公園のベンチに座つたら生殖器が被曝する」など見た日にはうちの子供たちはきちんと子供を産めるのか?考えたら、頭がおかしくなりそうでした。

知れば知るほど、食べ物も何を食べさせればいいのかわからなくなり、全てに放射能が入っている気がしてしまひ、食品会社に電話を掛けまくり、夏休みに入つてしまつた子供達の相手もできず、常に放射能で頭がいっぱいで、どうすればいいかわかりませんでした。

それから疎開をする。デトックス(解毒:事務局注)できると知り、9月に親戚のいるアメリカへ母子で疎開を決めました。アメリカにいても毎日ネットで情報を探し、尿検査でセシウム等があるかわかるのを知つて、2カ月後に日本に戻つて、少し遅くなりましたが12月末に尿検査をしてNDになりました。デトックスできたのだと少しだけホツトしました。そしてまた日本



では放射能との戦いの日々です。

アメリカから帰つてきて間もなく、幼稚園の牛乳を飲ませてなかつたので1週間分を測定してもらいました。なんと10 bq/kg出ました。幼稚園児達はこの1週間、10 bq前後飲んでしまつていたことでしょう。毎日、牛乳は出されます。2011年当時、どれくらい内部被ばく



していたことでしょ
う。周りのお母さん
達を集めて危険だと
話しました。幼稚園の
園長先生にも土壌を
検査して欲しいとお
願いました。お母さん、気に
しすぎですよ」と言
われ、理解してくれ
る人は近くにはあま
りいませんでした。
だんだん、幼稚園で
も友達が離れていく
気がして、浮いてる
と感じました。国が
正しい情報を私達に
教えていないので、
気にしている人は神
経質な親になってし
まいます。

能を気にしての受
け入れをしてくれ
る自治体はなかな
か見つけれませ
んでしたが、やつと
一つ、支援団体が石
垣島に見つかりま
した。2012年1
月から石垣島へ母子
で疎開しました。そ
こでは親子5組の共
同生活で本当に毎日
が大変で、キッチン
もお風呂もトイレも
共同です。でも、安
心して外遊びができ
ることが嬉しくて、
なんとか4カ月が
ばりしました。でも、
本当に共同生活はと
ても大変でした。そ
して、2012年5
月に再びA市に戻り
ました。

疎開ではなく保養に
北海道へ行きました。
その時に甲状腺検査
を初めてしました。上
の子にはのう胞がた
くさん見つかりまし
た。また勉強不足で
のう胞のこともあまり
知りませんでした。何
でも放射能が原因だ
とは限りませんが、や
はり結びつけてしま
います。例えば、どこ
かが痛いと言われた
りすると、あの初期被
ばくが原因ではない
かと心配で心配で仕
方ありません。原発が
爆発し被ばくしたこ
とによって、常に心配
で不安な気持ちにさ
せられているのです。

2011年の12
月に木下黄太さんの
講演会に行つて、土
壌調査したデータを
いただきました。私
の生活圏はだいたい
4万 Bq/m^2 を超えて
いました。放射線管
理区域になりますよ
ね。人が入ってはい
けない場所です。子
供達は地べたでゴロ
ゴロ転がったり、裸足
になったり、水たまり
に入ったりしていま
した。震災が起きる
まで、原発のことな
ど何も考えたことが
なくて、何も知らな
かった自分、本当に
子供達に申し訳ない
と思いました。

上の子の小学校入
学を機に2012年
12月に母子で京都
に引っ越しました。
主人には疎開の時も
そして今度は移住す
ることになり、いつ
も一人残つて仕事を
しなければならな
い、本当に申し訳な
い気持ちです。でも、
子供達のために私達
は離れることを決断
しました。一番悔し
いのは、やはり主人
と離れて暮らさねば
ならないことです。
当たり前前の生活が
できなくなる。放射
能は食べ物ばかりで
なく、生活に入り込
み、目に見えない、
本当に恐怖です。私
が当時着ていた、ク
リーニング後のダウ
ンコートからもセシ
ウムが20 Bq/kg 検
出され、1着当たり
10 Bq くらいでしょ
うか。食事のことば
かりで、そこまで気
が回らず、盲点がい
ろいろあり、汚染さ
れたコートを着て、
子供を抱いたりし
ていたでしょう。震
災当時は主人もい
ない日が多く、地震
が激しかったので
いつでも外に出ら
れるようにとその
もつと汚染されて
たであろうコート
を着て寝ていたの
です。それなら布団
も汚染されてるの
では？等々、何から
何まで心配になる
のです。

放射能は何もか
もに入り込んでく
るのです。こんな心
配で不安な毎日に
させられて、子供達
は甲状腺の検査も
必要になり、採血で
は毎回泣いたり痛
い思いをしなけれ
ばならない。言い出
したらきりがあり
ません。本当に東電
や国を許せません。
どうして本当のこ
とを早く教えてく
れなかったのか。原
発再稼働なんて、あ
りえないことなの
に、この日本はどう
なつてしまふので
しょう。

健康でいられる
かどうかを一生、心
配しなければいけ
ない子供達を増や
したくありません。
私のような悔しく
て悲しい思いをも
う誰にもして欲し
くありません。
支援して下さいさ
らうございます。心
から感謝しており
ます。この裁判に勝
ち、自分のしてきた
ことが正しいと認
めてもらいたいと思
います。

支援する会の会員になってください

◎1口：1,000円

【郵便振替口座】口座番号：00930-0-172794

口座名称：原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会

※メーリングリストへの登録を希望される方は通信欄にメールアドレスをご記入ください。

※皆さまの会費が会の活動を支えていますので、切り替え及び新規の加入をお願いします。順次、会費の切り替えをお願いしていきますのでよろしくお願ひします。

原告からの 投稿



未来へ向かつてー
京都・福島 夜行
バスの中から

うのさえこさん

2014年11月
16日曜日、午前5
時半過ぎ。

——今どこかな……

外を見ようとカー
テンを少し開けると
冷気がするりと入っ
てくる。じっと目を凝
らすと、夜明け前の青
の世界が浮かび上が
る。黒々とした木立と
平原、こんもりした森
の景色が飛び去って
いく。その上に、大き
な大きな鯨のような
雲が、ゆったりと浮か

んでいる。

——ああ、ここは那
須塩原あたり。

昨夜京都駅から乗
り込んだ夜行バス「ギ
ャラクシー号」は、順
調に夜の道を走り続
けてくれたようだ。い
つも死すら頭によぎ
りながらバスに乗り
込む、怖がりの私は、
少し安堵する。

——このまま無事
で、福島に帰れます
ように。

外は少しずつ色の
ある世界になってい
く。薄黄色の稲刈り
後の田んぼ、向こう
には薄紫の山々。空
は紫、桃色、黄色、白、
薄青色の何とも言え
ない優しい夜明け前
のグラデーシオン。

ツ……チ……
チ……チ……
チ……チ……

深緑の防風林。向
こうの家々の窓が朝
の光を反射してオレ
ンジ色に光る。

チ……チ……
チ……チ……
チ……チ……
——ああ、やつぱり。
こんな美しい夜明

けにも、放射能は降
り注いでいる。

やつぱり、私たちは、
帰れないのだ。何度
夜行バスに乗り込
み、運転手さんが夜
通し運転して連れて
行ってくれても。

新幹線で猛スピード
で突進しても。飛
行機に乗り込んで空
を飛んでも。私たち
は、福島に帰れない。
3・11前の福島に。
時の矢は、前にしか
進まないのだから。

チチ、ツツチチチ
チ、チチチ……チチ
チチチチ……

誰かのガイガーカ
ウンターの音は、ま
すます勢いを増し
て、雨あられのよう
に、バスの中に響い
ている。私は、自分
の中の、子どものよ
うな夢想を、もう一
度、そっと捨てる。

今、朝日は昇り、世
界はあたたかな黄色
の光で輝いている。

「それでも世界は
美しい」と、飯館村の

友人は言った。
私もそう思う。そう
思いたい。
子どもたちに、そう
伝えたい。

子どもたちを遠く
へ逃そうと、吹雪の
山を越えてから3年
と8か月。子どもた
ちはまだ守られてい
ない。放射能からも、
社会の不正義からも
も、無力感からも。

目に見えない放射
能を無視し、忘れて生
きるようにと国は言

う。このくらいなら大
丈夫と、受け入れて生
きよと国は言う。その
陰で、何人の母親たち
が涙を流そうとも、何
人の子どもたちが苦
しもうとも、何人の老
人たちが絶望の中で
命を絶とうとも。忘れ
なさい、あきらめなさ
いと国は言う。

でも。過去を忘れる
わけにはいかない。未
来をあきらめるわけ
にはいかない。

どんなことが起こ

つても、私たちが生き
るたった一つのこの
世界を、あきらめるこ
となどできない。人が
いのちをどう守り、人
間性をどう育て、生き
ていくのか。過ちを償
い、過ちを繰り返さな
いため、人はこの社会
で何をなすのか。

ちっぽけな一人の
母親の私でも、あきら
めるわけにはいかな
い。子どもを神さまか
ら預かるということ
は、そういうことだ。
世界を支えるくらい
の気持ちで、ひとりひ
とりがそれぞれの場
所で立ち向かわなけ
れば、世界を誰か一人
のスーパーマンが救
い、支えることなど
できないのだから。

バスは、懐かしい福
島市へと入ってしま
した。ここは、私が妊
娠中、いつも歩いてい
たところ。ここは、
時々遊びに行った友
人の住むマンション。
3・11後、一度も会え
ていない。阿武隈川が
光る。毎日小さな娘を



福島原発事故被害者集会（大河原さきさん提供）

後ろに乗せて、自転
車を走らせた。

もうすぐ、福島駅
東口。日曜日の朝、
街はゆつくりと起き
だしている。

ママ友が迎えに来
てくれているはず。彼
女は当時4歳の息子
さんを連れて最初の
数か月避難をした後、
福島市内の自宅で暮
らしている。この夏、
念願の第二子を出産

した。新しい生命のお
祝いをしたいと、ふっ
くら柔らかな人形が、
私のリュックに入っ
ている。赤ちゃんを抱
っこさせてもらおう。

Tくんはお兄ちゃん
になっっているかな。
Tくんには、娘が拾
ったドングリと絵本
を。大人には、京田辺
のお茶のお菓子を。

そして午後には集
会に参加する。損害賠
償裁判や刑事告訴、集

団ADR申立てなどを各地で起こしている原発事故被害者・支援者が集う「原発事故被害者集会」が、福島市公会堂で開かれる。仲間たちが準備に奔走してきた。遠くにいる私は、集会のアピール文を書くチームに加わった。集会の最後に読み上げられる。

帰っても、帰っても、帰るつかなない福島。時の矢は前に進む。ならば、私たちがたどり着きたい未来へ向かって、歩いていこう。子どもたちに、「それでも世界は美しい」と言えるように。

お人形と絵本とドングリとお菓子、そしてアピール文。それだけを荷物に、私はバスを降りる。未来へ向かって。

集会アピール「もう我慢はしない！立ち上がる宣言」



市民測定所まつり in 綾部に参加して

高木久美子さん

11月23、24日に綾部市で開催された市民測定所まつりにスタッフとして参加しました。

私は三春町写真家の飛田晋秀写真展の担当をしました。手作りの汚染マップをスタートに60点もの警戒区域の写真が並

びました。来場された方々は原発事故が引き起こした悲惨な現実を一枚一枚丁寧にみてくださいました。

写真展会場には、「笑顔つながろう会」の手作り品や原発関係の書籍、資料、大飯原発差し止め訴訟の原告の申込みなども設置しました。

食品の放射能測定では意識ある住民の方が検体を持ってきた。



測定所まつりで原告のお話会の様子

てくれました。その中でも豆乳の検体ではセシウムは検出されませんでした。異常にビスマスの数値が高くスタッフ一同が驚きました。

また、ホットスポットファインダーの性能には感動。歩きながら測定ができ、どこにホットスポットがあるか知れます。リアルタイムでパソコンから皆さんに届けられます。参加者、スタッフ共にとても興味深いものでした。

その他、放射能汚染の実態と市民測定所の役割についての講演（奥森代表、原発賠償訴訟や大飯原発差し止め訴訟の訴えなど盛りだくさんの内容で、私も京都に避難した経過についてお話ししました。原発事故が起こった、人々のくらし、健康、経済が一体どんな事態になって行くのか？食品への安心安全は？測定祭

りを通し、参加された方々が危機感を持ち共感していただけました。2日間でした。

夜の飲み会では測定所メンバーと楽しく盛り上がり美味しいお酒にお刺身など頂きました。また、子ども達には舞鶴港ツアーや勉強会を企画してもらい感謝でした。ありがとうございました。

こども健康相談会に 取り組んで

齋藤夕香さん

私は2012年1月、放射線量が高い地域で暮らすことに限界を感じ、4人の子どもたち下3人を連れ、福島市から京都に避難してきました。福島には両親、主人、長女がいますが、福島と京都、行ったり来たり生活を送っていました。自宅は原発から50km弱のところにあります。

現在、東日本大震災による原発事故により、被ばくを懸念し避難したお子さんやご家族を対象とした「避難者こども健康相談会きょうと」の事務局を担い、2013年6月から年2回のペースで開催しています。

福島県で行われている県民健康管理調査では、主に甲状腺検査ですが、通常100万人に一人と言われていた甲状腺がんは、平成26年6月の段階で103人を超えました。歴史ある事故や、細胞がどう壊されていくのかを合わせ見ると、放射線による被害の実態は、今調査している「甲状腺がん」だけではなく、様々な症状にも影響を及ぼすのではないかと想像が広がります。しかし、調査中の甲状腺がんが増えているにもかかわらず、心配はないと行政側は避難者向けに帰還支援事業を推進

し、殆ど実態が報道もされることなく風化しつつあるのが現状です。

去る11月16日、京都宇治の文教大学でこども健康相談会第4回目を開催し、午前中は相談会、午後には医師のセミナー、学生ボランティアの取り組みの報告をしていただきました。今回初めて学生二人に発表をお願いしましたが、一人はもともと福島出身で、原発事故から、少しずついろんな情報を知り、気持ちが変わって行く様子を話してくれました。この相談会は、小児科医有志をはじめ、大阪の医師と連携をとりながら、たくさんの方の支援者の方に協力いただけているからこそ開催できるものです。

近くに診てくれる医師がいらないからと、遠方から相談会に来られるご家族もおられます。そのために時間とお金を使って東北から関西までこ



健康相談会当日、スタッフ打ち合わせの様子

られます。近所の病院でも当たり前に検診が受けられるようになってほしいですが、今後もこの会をできる限り継続し、同じ意志を抱く人達を繋ぎ続けていきたいと思っています。

福島の地元では、一軒一軒、除染作業を地道に行っているが、子どもたちが走り回って遊んでいた山の土まで、できるわけがありません。目

にも見えないために、もう何もなかったような空気が流れていますが、子どもを持つ親達にとっては、口には出せなくても不安を抱えたままの生活が現在も今続いています。これは福島だけの問題ではなく、この国全体の問題だということ、多くの大人達にまず気が付いてもらいたい。

そして、大人達の都合で作られてきた不

要な設備への投資は、こういった大事な故を生み出すのだというのを、これからの子どもたちや若い世代の人達にしっかりと伝えていきたいと思っています。

年越しまつりで

利き酒!?

鈴木美佳子さん

12月7日(日)、「うつくしま☆ふくしまin京都」主催の毎年恒例年越しまつりに、娘と参加させていただきました。

かなり寒い日でしたが、子供達はお餅とジャンケン大会目当てに、大人達はお酒(私だけではないはず)目当てにぞくぞくと集まってきて、最初から大盛り上がりでした!

お米がふかし上がると、早速お餅つきです。つきたてのお餅は、すぐにみんなで丸餅にします。東北のお餅は切り餅(四角)なので、私は丸餅にするの



年越しまつりの様子

は初めてでした。丸めるだけなのに、なぜか私には難しかったです。が! つきたてのお餅は絶品でした! 子供達も大人達も次々とお餅を頬張っていました。お餅の次は日本酒です。(お酒の事ばかりですみません)美味しそうな日本酒を揃えていただいていたので、利き酒(?)もできました!

お腹が満たされたところで、いろいろな方からのアピールは初めてでした。丸めるだけなのに、なぜか私には難しかったです。が! つきたてのお餅は絶品でした! 子供達も大人達も次々とお餅を頬張っていました。お餅の次は日本酒です。(お酒の事ばかりですみません)美味しそうな日本酒を揃えていただいていたので、利き酒(?)もできました!

イム。支援していただいている方からは、日頃の活動など、避難者からは感謝の気持ちなど。

で、最後は恒例のジャンケン大会です。私はなんと! 新米5キロをget...ならず最後の最後で負けてしまいました。来年は頑張ります。

始まりからイベント終了まで、子供達はもちろん大人達も楽しい時間を過ごさせていただきました。支

原発賠償京都訴訟の勝利をめざす 2015年新春のつどい

原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会の総会&レセプションを下記のとおり開催します。参加される方は1月9日までに支援する会事務局宛にお申し込みください。多くの方の参加をお待ちしています。〈申込み先〉 E-mail: shien_kyoto@yahoo.co.jp

- ・日時 2015年1月13日(火) 14:00~16:30
- ・場所 キャンパスプラザ京都・ホール(2階)
- ・内容 14:00 京都原告団を支援する会総会
14:20 新春レセプション
乾杯、あいさつ、アピールなど
- ・参加費 原告・避難者1000円、こどもは無料
会員・一般2000円
- 主催 原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会—

援者の方からはとても温かい気持ちを感じ、同じ避難者として、私ですが、支援者の方や同じ立場の人達と共に「諦めない気持ちを持つ」という事が、今私に出来る精一杯のことだと思っています。

来年もまた楽しい企画を期待しています! 本当にありがとうございました。